秋田大学
広告
第15回 DREAM REPORT
情報データ科学部

支え合う未来を描く防災研究

生き残ったその先へ

災害が起こったとき、被災者の命を守ることはもちろん、その先の人生に寄り添い、支援し続けることがとても大切です。私の防災研究のテーマでもあります。

私が研究者を志した原点は、10歳で小児がんを患った経験です。年齢を重ねるにつれ、家族や友人、医療従事者に加え、献血してくださった方々に支えていただいたと気付きました。「不特定多数の人に助けられた」という思いが、いつしか「恩返しをしたい」という私の行動理念になりました。

大学受験時は自動車の設計に憧れ機械工学科が第一志望でしたが、受験に失敗し、物理学科に進学しました。入学後、学園祭の実行委員や内閣府の国際交流事業に携わった経験が、私の視野を大きく広げました。特に、世界の青年らとの交流の中で、「世界中の人に恩返しする方法って何だろう?」と自問するようになりました。2010年秋、学部3年生だった私は、学び始めた専門知識を生かせる「防災」というキーワードに初めてたどり着きます。

大学院入試を見据えて研究室訪問をしている最中、東日本大震災が発生しました。地震発生時は、後に恩師となる津波防災の専門家・高橋智幸先生（関西大教授）との打ち合わせを終えたところでした。関東圏の友人に支援物資を送るなどできることを実践しましたが、持続できず、「他にできることは?」と考えた結果、先生方の協力もあり、津波防災の分野に歩み始めました。

初めての現地調査で宮城県気仙沼市を訪れた時に見た光景は、今も忘れられません＝写真。わずか1㍍にも満たない地面の高さの違いで被害が大きく異なり、「高いところへ逃げる大切さ」を実感しました。

18年に東北大に着任し、津波防災の研究を続ける中で、「災害から生き残った後の支援」にも視野が広がりました。小児がんの治療の影響と向き合いながら、その後の人生を歩む自分自身の経験と重なったからです。災害や病気の経験後も、私たちの人生は続きます。だからこそ、私は「災害の経験と共に歩み続ける時代に、一人一人のウェルビーイング（心身の健康・人生・歩み）に貢献する」を研究テーマにしています。異分野の研究者、民間企業、自治体と連携し、災害から「生き残る」研究に加え、災害による心理的影響調査やセルフケアに関する研究を行っています。

学びは一直線である必要はありません。私も当初の希望とは違う分野からスタートしましたが、人との出会いや自身の経験を通して、防災研究というテーマに進みました。高校生活も含めて、失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦することで、きっと道が開けると思います。皆さんの挑戦を応援しています。

秋田大学 情報データ科学部
情報データ科学科 講師
門廻 充侍（せと・しゅうじ）

【略歴】
大阪府生まれ。関西大システム理工学部卒。東北大災害科学国際研究所助教、秋田大新学部設置準備室講師を経て、2025年より現職。

【秋田の好きなところ】
アットホームな空気感、晴れた日の空（曇りが多いからこそ）

次回は9月13日に掲載します

秋田大学 | 秋田市手形学園町1-1
https://www.akita-u.ac.jp
受験に関する情報はコチラ